Investor Presentation

2027年3月期 中間期決算の概要

株式会社CCIグループ

2026年10月30日

目次

1. エグゼクティブサマリ

- エグゼクティブサマリ 4

2. 決算サマリ

- 2027年3月期 第2四半期 決算サマリ 6
- 2027年3月期 通期業績予想 7
- 各事業別の進捗状況 8
- 事業の発展と4つの戦略上の役割 9
- 事業の役割と事業基盤・投資の考え方 10

3. トピックス

- 金利シナリオ変更・業績への影響について 12
- 貸出金の金利構成 13
- 与信コストと不良債権への保全・引当の状況 14
- 預金基盤の強化に向けた取組み 15
- BankWill の概要と北國銀行での導入スケジュール 16
- BankWill の他金融機関への販売状況 17
- BankWill 稼働後のシステムコスト計画 18
- プライベートアセットの取組み 19

4. Appendix

- 決算の概要（CCIグループ連結） 22
- 預貸金の状況（残高推移） 23
- 預貸金の状況（利回り推移） 24
- 有価証券の運用状況と今後の投資戦略 25
- 円債投資の状況 26

© CCI Group, inc.

1．エグゼクティブサマリ

© CCI Group, inc.

エグゼクティブサマリ

第2四半期	決算概要 資本戦略	● 貸出残高増加・金利上昇や市場運用の収益改善により経常収益712億円。 （前年同期比＋175億円） ● 親会社株主に帰属する中間純利益136億円。（前年同期比＋55億円） ● 通期では、親会社株主に帰属する当期純利益190億円、ROE8.3%、配当35円を予想。
	銀行事業	● 北國銀行のコア業務純益は185億円（前年同期比＋117億円）、利回り上昇・貸出金増加が主因。 ● 事業性融資の末残は15,832億円（前期末比＋250億円）、収益は前年同期比＋47億円。 ● 円債入替を継続し有価証券利回りは1.68%（前年同期比＋0.60%）、資金利益は＋40億円。 ● リース債権等の末残は458億円（前期末比＋25億円）、新規契約利回りも改善。 ● 預金末残は46,395億円（前期末比△1,815億円）、預金利息は前年同期比＋26億円。
	新事業	● 法人コンサル収益は11.8億円（前年同期比＋3.4億円）、大企業向け案件が増加。 ● トチツーカのユーザーは30万人を突破（2026年9月現在）。 ● ファンド事業における株式の一部売却により収益増加。

© CCI Group, inc.

2．決算サマリ

© CCI Group, inc.

2027年3月期 第2四半期 決算サマリ

■損益の概要

（単位：百万円）

CCIグループ連結	2025/9	2026/9	増減	増減率
経常収益	53,678	71,256	17,578	32.7%
経常利益	12,345	15,342	2,997	24.2%
中間純利益*	8,105	13,670	5,565	68.6%

*：親会社株主に帰属する中間純利益

（単位：百万円）

北國銀行 単体	2025/9	2026/9	増減	増減率
経常収益	44,941	61,760	16,819	37.4%
経常利益	11,388	14,760	3,372	29.6%
中間純利益	7,423	13,326	5,903	79.5%
コア業務純益	6,793	18,576	11,783	173.4%

■自己資本比率

	2025/9	2026/3	2026/9
連結自己資本比率	9.49%	9.10%	9.10%

■総括

CCIグループ連結

- 2期連続の増収増益

北國銀行単体

- 2期連続の増収増益
- コア業務純益は3期連続の増益

■概要

- 政策金利引き上げによる利回り上昇や貸出残高増加に加え、ファンド事業の運用収益取込により資金利益が増加し、北國銀行のコア業務純益は前年同期比で増加。
- 債券入替による売却損計上に加え、前年に株式売却を進めた反動から有価証券関係損益は前年同期に比べ減少。
- 税効果会計により法人税等負担率が低下した影響もあり、中間純利益は前年同期比で増加。

© CCI Group, inc.

2027年3月期 通期業績予想

【CCIグループ　連結】

（単位：百万円）

（通期）	2026年度 修正通期予想
経常利益	26,500
当期純利益*1	19,000

（中間期）	2026年度 当初中間期予想	2026年度中間期 実績	2026年度 当初通期予想
経常利益	14,000	15,342	26,500
中間純利益*1	9,000	13,670	17,000

*1：親会社株主に帰属する当期（中間）純利益

【北國銀行　単体】

（通期）	2026年度 修正通期予想
経常利益	25,000
当期純利益	18,000
コア業務純益	32,500

（中間期）	2026年度 当初中間期予想	2026年度中間期 実績	2026年度 当初通期予想
経常利益	13,000	14,760	25,000
中間純利益	8,500	13,326	16,000
コア業務純益	14,000	18,576	26,500

【一株当たり配当金】

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度*2	2026年度	（当初）2026年度
年間配当	100円	110円	120円	23円	35円	30円
うち中間配当	50円	55円	60円	11円	15円	15円
うち期末配当	50円	55円	60円	12円	20円	15円

*2：2025年10月1日に1：10で分割実施、株式分割後で記載

© CCI Group, inc.

各事業別の進捗状況

（金額：百万円）

	蓋然性評価	2027/3 計画		2026/9 実績	上期計画進捗率
		通期	上期		
事業性貸出・リース	A	31,067	14,461	15,130	104.6%
消費者ローン	A	11,007	5,519	5,385	97.6%
市場運用	A	25,142	12,513	9,758	77.9%
キャッシュレス	B	1,866	834	822	98.6%
コンサルティング（BPO・投資助言・海外コンサル含む）	B	3,008	1,497	1,398	93.4%
投資・運用	C	3,045	1,522	3,390	222.7%
デジタル・システム	B	1,213	607	614	101.2%
地域活性化	B	671	336	246	73.2%

＜蓋然性評価について（2026/3期　IR資料再掲）＞

① 事業毎の不確定要素や将来見通しの違いを踏まえ、蓋然性を3段階で評価し収益・費用に反映。蓋然性が低い事業では、収益を保守的に見込む一方、費用は不確実性を考慮した水準で設定。

高い ⇐ 蓋然性 ⇒ 低い		
A	B	C
不確定要素が少なく業績変動性が低い	不確定要素・変動性ともに中程度	不確定要素が多く業績変動性が高い

② 不確定要素の大きい事業については保守的な前提で計画を検討しており、その結果、全体計画は達成確度の高い水準。

事業性貸出
- 当座貸越の平残増加や利回り上昇に伴い、収益増加
- 与信コストは13億円（通期計画 50億円）

消費者ローン
- 貸出平残は前年同期で下回るものの、利回り上昇により収益増加

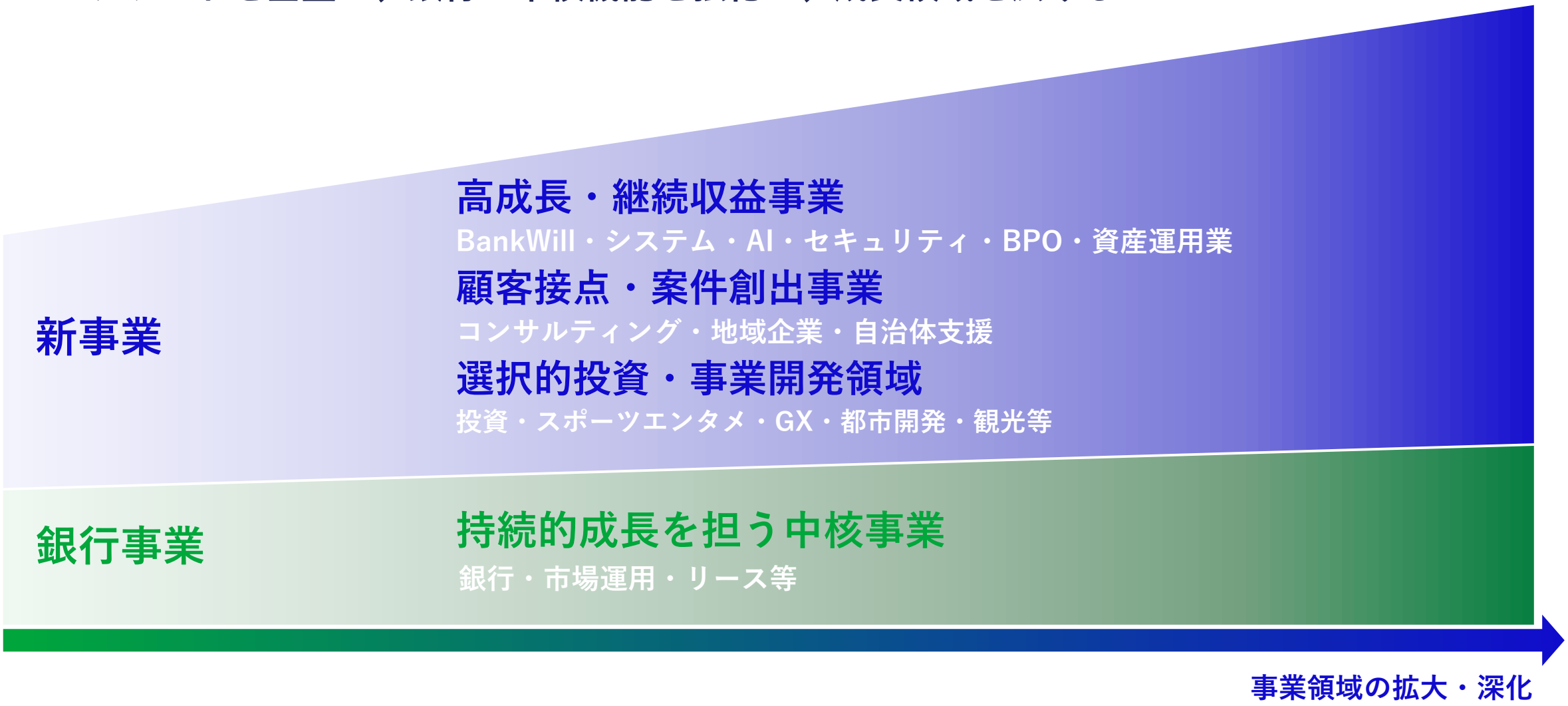
法人コンサルティング
- 大型案件（金融機関向け・大企業向け）が寄与し、前年同月比増加。

投資・運用
- 株式の一部売却により収益増加。

© CCI Group, inc.

事業の発展と4つの戦略上の役割

■ 2ブランドを基盤に、銀行の中核機能を強化し、成長領域を広げる



© CCI Group, inc.

事業の役割と事業基盤・投資の考え方

戦略上の役割	主な領域	収益・顧客価値への貢献	事業基盤と投資の考え方
 持続的成長を担う中核事業	銀行・市場運用・リース等	今後も安定収益を確保 顧客基盤・信用力を支え 資本形成の中核を担う	貸出・リース等の資産を活用 手数料収益も組み合わせる
 高成長・継続収益事業	BankWill・システム AI・セキュリティ・BPO 資産運用業	標準化・外販で 継続収益を拡大し、 利益源泉を多様化	人材・ソフトウェアを中心に投資 大規模な資産保有への依存を抑える アセットライトを基本とする
 顧客接点・案件創出事業	コンサルティング 地域企業・自治体支援	顧客課題を発見し、 金融・非金融機能をつなぐ	人材・専門知識を基盤に展開 大規模な資産保有への依存を抑える アセットライトを基本とする
 選択的投資・事業開発領域	投資・スポーツエンタメ GX・都市開発・観光等	資本効率・横展開の可能性 回収・売却の見通しを踏まえ 案件ごとに判断	投資・資産保有を案件ごとに判断 外部資本も活用する

© CCI Group, inc.

3．トピックス

© CCI Group, inc.

金利シナリオ変更・業績への影響について

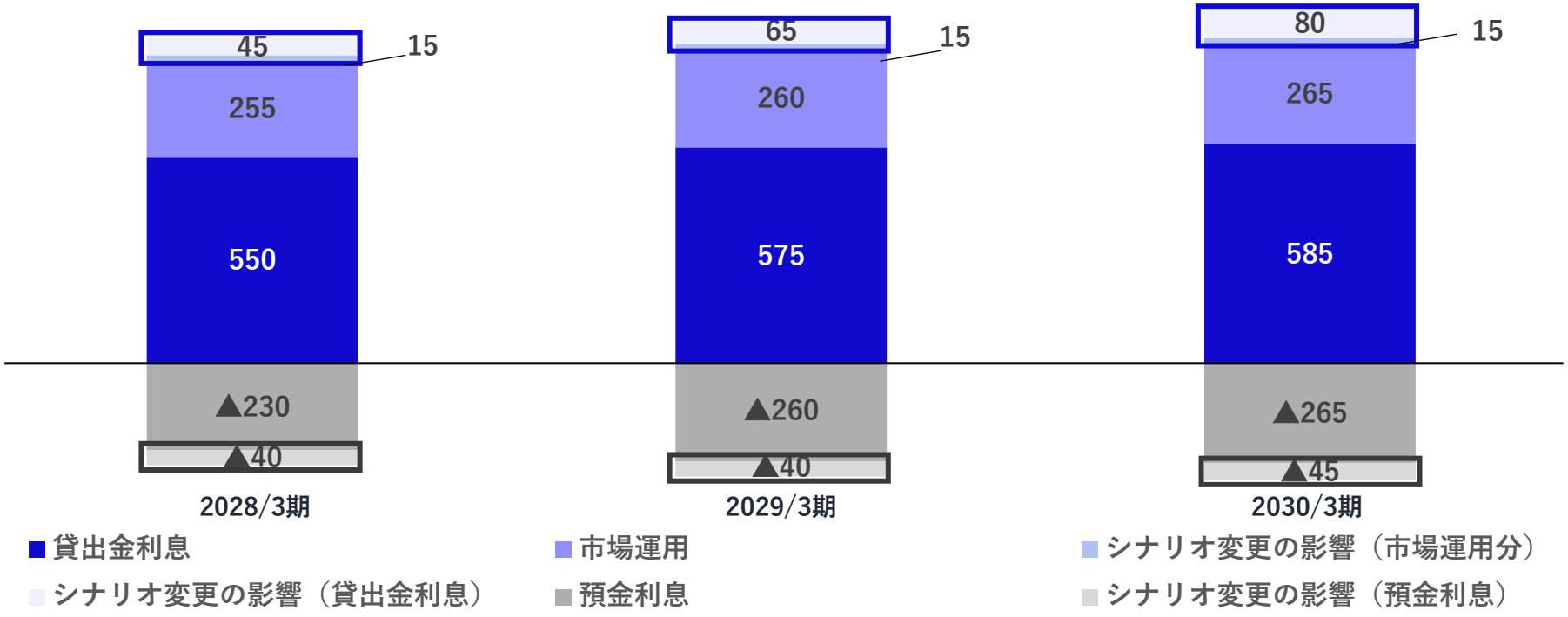
■ 金利シナリオの変更により、預金利息の増加を上回る貸出金利息・市場運用収益の増加を見込む

金利シナリオ

■短期（政策金利）
1.50%（27/3期）～
1.75%（28/3期以降）

■長期（10年国債）
3.00%（27/3期以降）

（単位：億円）



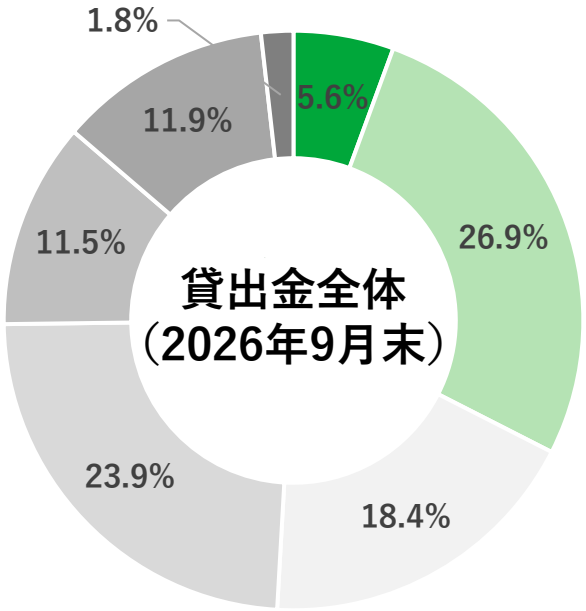
シナリオ変更による影響額	2028/3期	2029/3期	2030/3期
プラス影響（貸出金利息＋市場運用）	＋60	＋80	＋95
マイナス影響（預金利息）	▲40	▲40	▲45
合計	＋20	＋40	＋50

© CCI Group, inc.

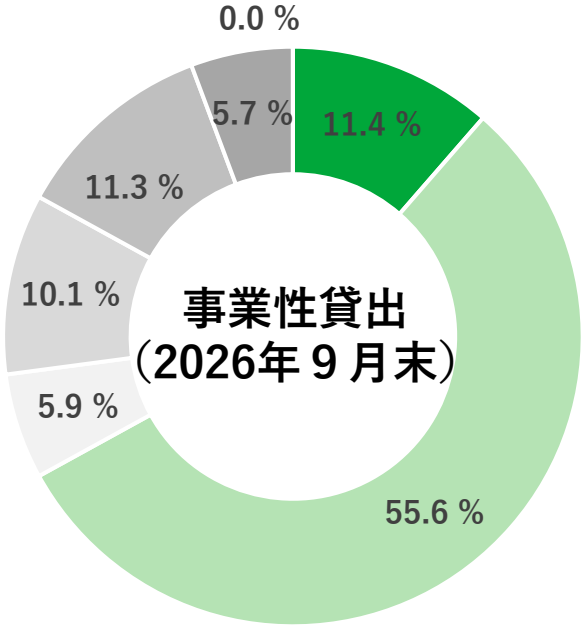
貸出金の金利構成

- 貸出金の変動金利割合は30%超、約25%が市場金利と連動
- 事業性貸出金は市場連動体系が50%超を占め、金利上昇の効果を得やすい構成
- 住宅ローンは固定金利は短期（2年・3年）の構成が9割

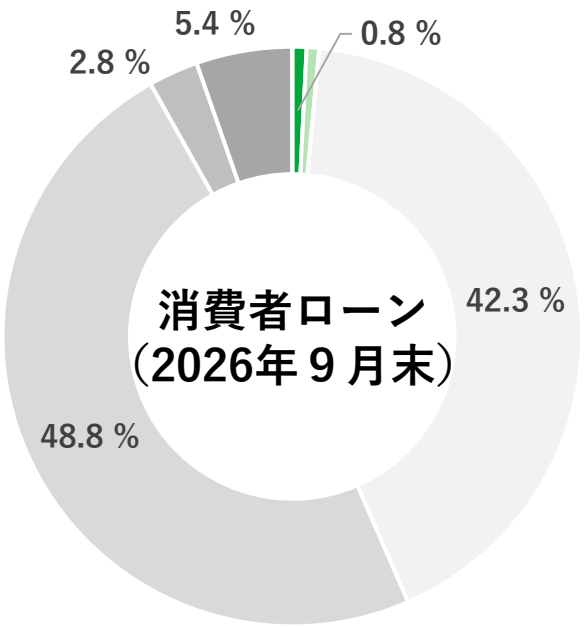
貸出金の金利別内訳



事業性貸出金



消費者ローン

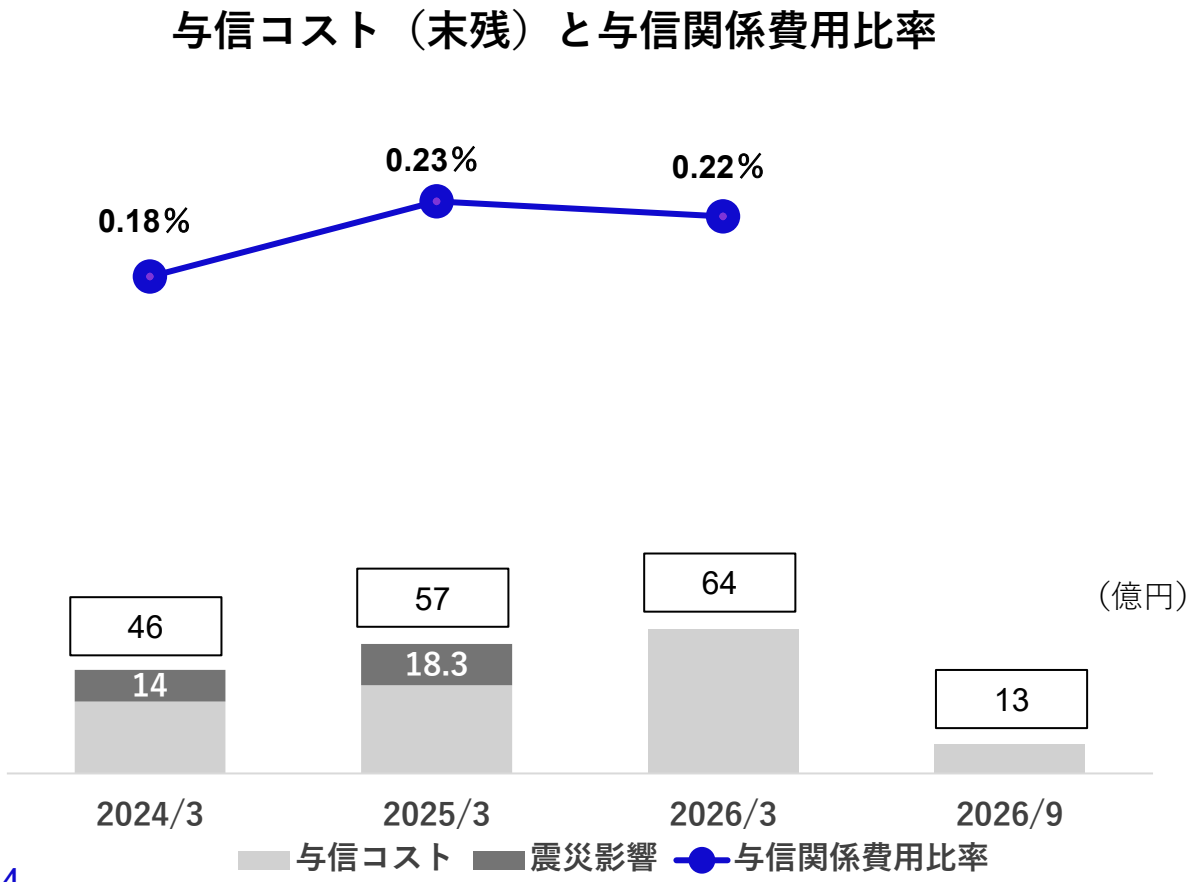


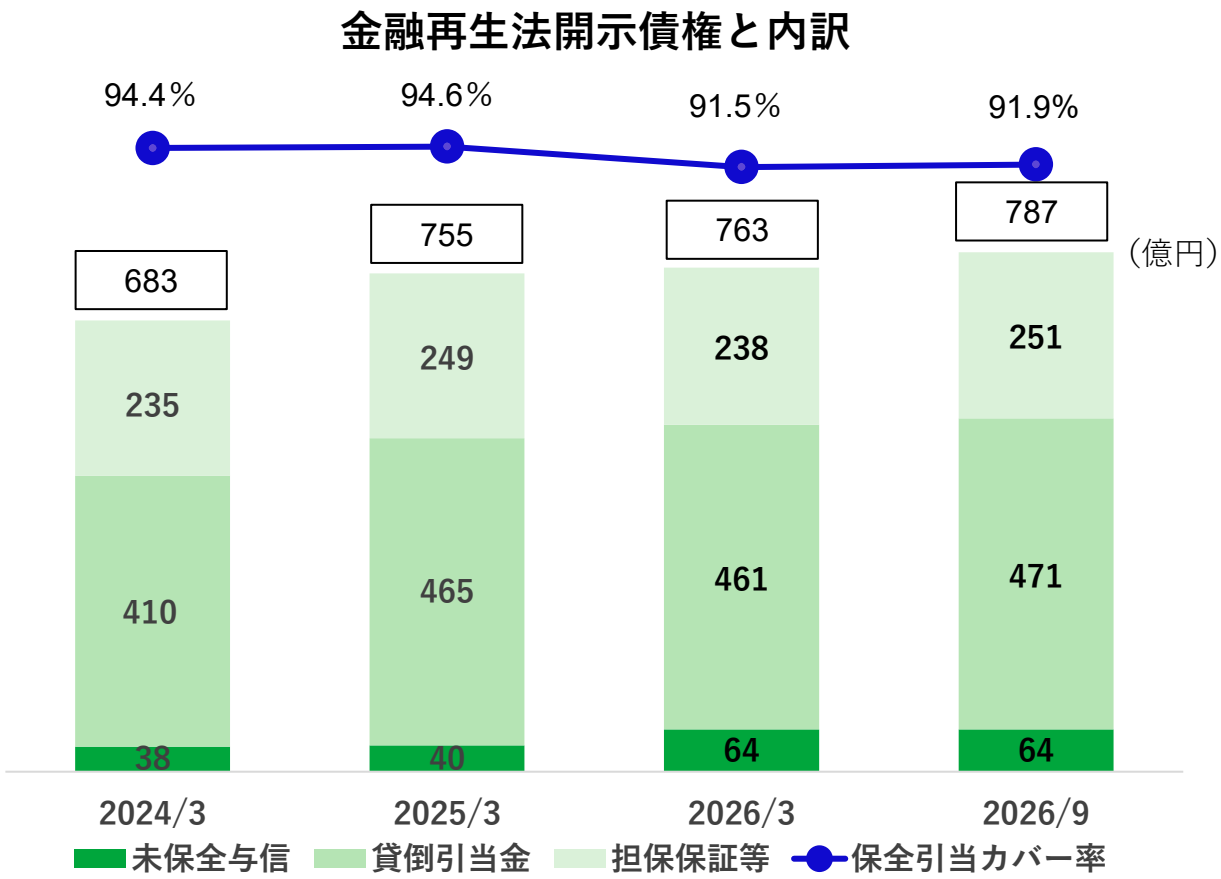
■ 変動金利（短期プライム）
■ 変動金利（市場連動）
■ 固定金利（1年未満）
■ 固定金利（1年以上3年未満）
■ 固定金利（3年以上5年未満）
■ 固定金利（5年以上）
■ その他

© CCI Group, inc.

与信コストと不良債権への保全・引当の状況

- 国内外の情勢踏まえた保守的な計画（50億円）は変更しないが、通常計画の30億円程度となる蓋然性は高まっている （蓋然性評価：C）
- 金融再生法開示債権に対する保全および引当によるカバー率は高い水準で推移





© CCI Group, inc.

預金基盤の強化に向けた取組み

■ 個人・法人ともに、日常の入出金に利用する決済メイン口座の獲得による資金循環を強化
■ 流動性預金、預かり資産含めた取引残高の拡大に注力する

利便性の向上・手数料負担の軽減

・インターネットバンキングでの北國銀行宛振込手数料の無料化
・他行宛振込の無料（回数制限あり）
・投資信託の購入時手数料無料
・デビットカードやデジタル地域通貨によるキャッシュレス決済

「あーよかった。」と、思える瞬間が増えていく。
HOKKOKU LIFE+（タス）※

25万口座

※インターネットバンキング＋Visaデビットカード＋通帳レス・印鑑レスが１つになったデジタル口座



TOCHI TOKA トチツーカ※

30万ユーザー

※決済コストの低減、行政サービスのデジタル化、地域内消費の促進などを図るデジタル地域通貨

北國デジタルバンキング※

デジバン　1,355先
当座貸越　利用残高 1,081億

※法人向けインターネットバンキングサービス

（単位：億円）

顧客資産残高	2025/3	2025/9	2026/3	2026/9	前年同月比
預金	49,158	47,319	48,210	46,395	▲924
預かり資産（国債・投信・保険等）	2,762	2,967	3,171	3,471	＋504
合計	51,920	50,286	51,382	49,866	▲420

預金残高（末残）	2025/3	2025/9	2026/3	2026/9	前年同月比
個人	30,075	30,029	29,987	29,614	▲415
法人	12,581	13,124	13,041	13,308	＋184
公金・金融	6,501	4,165	5,181	3,473	▲692
合計	49,158	47,319	48,210	46,395	▲924

© CCI Group, inc.

BankWill の概要と北國銀行での導入スケジュール

■ 金融機関が継続的に進化するための、次世代コアバンキングシステム

BankWill

銀行の勘定系機能を担う
クラウド型の中核基盤



Java・マイクロサービス／マルチクラウドに対応

北國銀行での導入スケジュール（予定）

2026年12月30日	12月31日～1月2日	2027年1月3日	1月4日
現行システム 最終営業日	システム停止 移行作業	休日稼働開始 初動確認	初回営業日 全面稼働予定

安定移行・安定稼働を最優先に、稼働後も顧客接点や業務の改善を継続

© CCI Group, inc.

BankWill の他金融機関への販売状況

■ 経営課題を起点に、業務改革を支える経営基盤としての活用を協議

他金融機関との交渉状況／対話・支援の内容

問い合わせのある金融機関

BankWillへの関心・相談

約10行

交渉中の金融機関

経営基盤の進化・業務改革を協議

約5行

経営像・顧客価値の共有	地域で果たす役割や、 お客さまに届けたい価値を共有
業務改革の具体化	業務と顧客接点を一体で見直し、 BankWill の活用を協議
実装・定着・継続改善	導入・運用から人材定着まで支援し、 稼働後も改善を継続

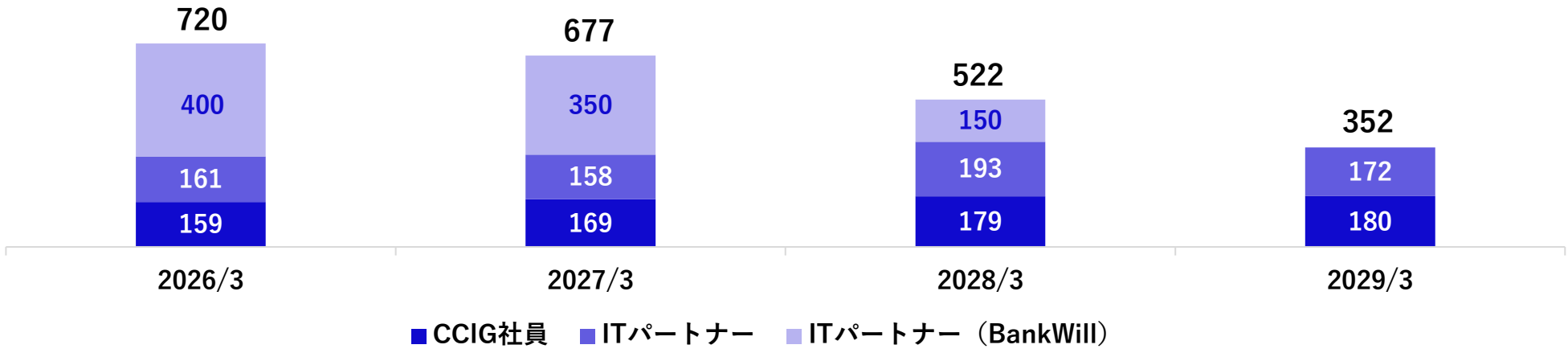
北國銀行の実践を基に、構想から運用・継続改善まで一体で支援

© CCI Group, inc.

BankWill 稼働後のシステムコスト計画

- 2027年1月 「BankWill」の減価償却費の計画を5年に変更（40億円/年 2032/3期に償却完了予定）
- AI活用・システムモダナイズによる生産性向上とオフショア開発の活用を継続
- 2030年以降、システムコストは減少し、BankWillの償却完了で一層低減する見込み

システム部門人員の推移（人）



システムコストの推移（億円）



※ システムコストは事務機器・ATM機器の金額を含めず計算

© CCI Group, inc.

プライベートアセットの取組み

■ 地域・投資先の企業価値向上とグループの資本効率向上に向け投資領域を拡大

投資目的　投資先・地域の企業価値向上、グループ事業との協創、財務リターンの獲得など、投資目的に応じた投資を推進

PE プライベートエクイティ	事業承継・再生投資	事業承継、再生・復興等を通じ、企業の正常化と地域価値の維持・向上を支援
	成長企業投資	ベンチャー・成長企業等に投資し、企業価値向上と投資リターンの獲得を目指す
	協創型戦略投資	投資先との協業やサービス実装を通じ、投資収益とグループ事業収益を追求
PD プライベートデット	プライベート デット（海外現地法人融資）	非公開企業等への信用供与により、利息・手数料収益の獲得を目指す
	プライベート デット（資産運用事業）	資産運用事業強化のためのシード投資

© CCI Group, inc.

プライベートアセットの取組み

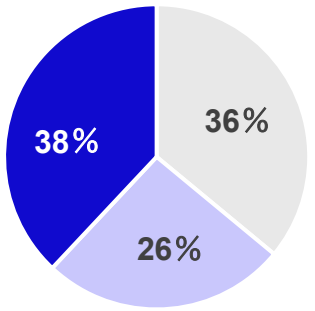
- ■ 上場株式を売却し、プライベートアセット投資に振り向ける
- ■ 事業承継・再生投資に注力し、地域の課題解決と質の向上により収益獲得を図る
- ■ プライベートアセットを運用対象とする資産運用業務を開始する

■ 運用状況

投資戦略	投資目的	投資先数	投資額（百万円）
事業承継・再生投資 ※2026年6月末	企業正常化・地域価値向上	29	9,231
成長企業投資 ※2026年6月末	企業価値向上・財務リターン	69	6,936
協創型戦略投資 ※2026年6月末	投資収益・事業収益	44	20,288
プライベートデット （海外現地法人融資） ※2026年9月末	海外の企業価値向上 融資利息収益	28	6,566
合計	—	170	43,021

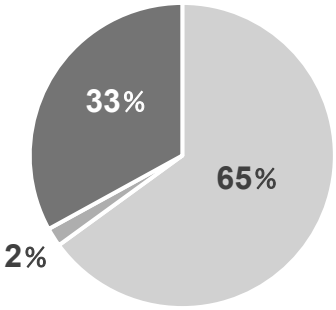
※上記は現時点で実績・残高のある取組み

地域別投資額



北陸三県　北陸以外の国内　海外

カテゴリ別投資額



非上場企業　上場企業　LP出資

© CCI Group, inc.

4. Appendix

© CCI Group, inc.

決算の概要（CCIグループ連結）

（百万円）

	2025年度（4月～9月）	2026年度（4月～9月）	前年同期比
連結粗利益	26,752	35,776	9,024
資金利益	21,950	33,018	11,068
貸出金利息	16,536	23,118	6,582
有価証券利息配当金	10,745	16,764	6,019
預け金利息	1,908	3,549	1,641
預金利息（△）	3,642	6,190	2,548
その他	△3,596	△4,223	△627
役務利益	3,707	4,723	1,016
その他業務利益	1,094	△1,964	△3,058
うち債券関係損益	△115	△3,267	△3,152
（参考）コア業務粗利益	26,867	39,043	12,176
経費（△）	19,210	19,641	431
人件費	7,139	6,826	△313
物件費	8,486	10,856	2,370
税金	3,584	1,959	△1,625
（参考）コアOHR	71.5%	50.7%	
（参考）実質業務純益	7,542	15,963	8,421
（参考）コア業務純益	7,657	19,230	11,573
与信関係費用（△）	1,564	1,381	△183
株式等関係損益	5,929	△99	△6,028
その他の臨時損益	437	689	252
経常利益	12,345	15,342	2,997
特別損益	△842	△98	744
法人税等（△）	3,293	1,525	△1,768
非支配株主に帰属する中間純利益（△）	104	48	△56
親会社株主に帰属する中間純利益	8,105	13,670	5,565

■資金利益 33,018（前年同期比＋11,068）
- 事業性貸出の平残増加と利回り上昇で、貸出金利息が＋65億円
- 金利上昇で預金利息は＋25億円だが、利息収入の増加がそれを上回った

■役務利益・その他業務利益
・法人コンサルの大型案件で、役務利益計上（金融機関向け・大企業向け）
・円債売却損の計上で、債券関係損益は△31億円

■経費 19,641（前年同期比＋431）
- 物件費が＋23億円（BankWill関連のシステム費用など）
- 増収効果でコアOHRは71.5％から50.7％に大きく改善

■与信関係費用・株式等関係損益
- 費用は前年並み（13億円）
- 株式等関係損益は△60億円
前年同期の売却益がなくなった反動

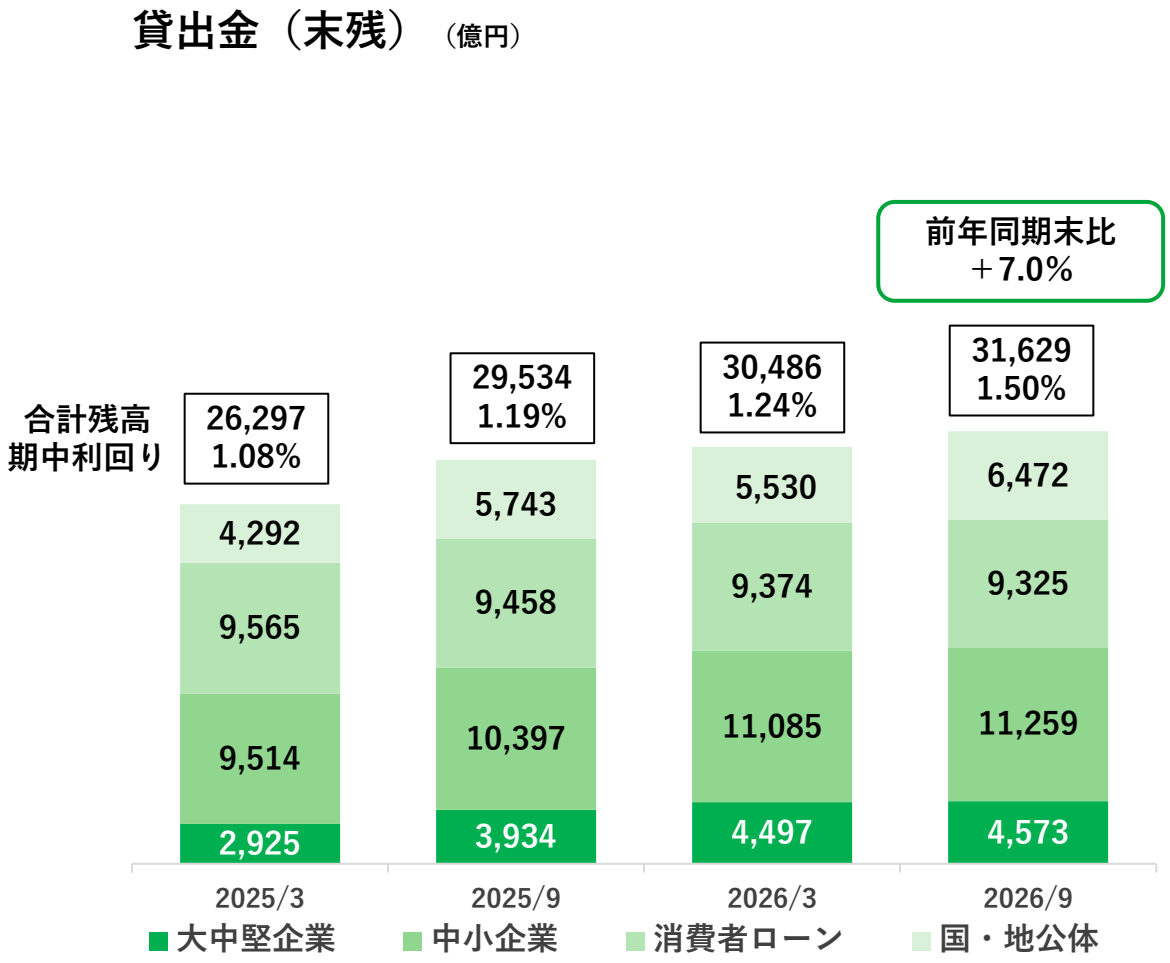
■法人税等 1,525（前年同期比△1,768）
- 過去に計上した貸倒引当金にかかる税効果会計の影響で減少

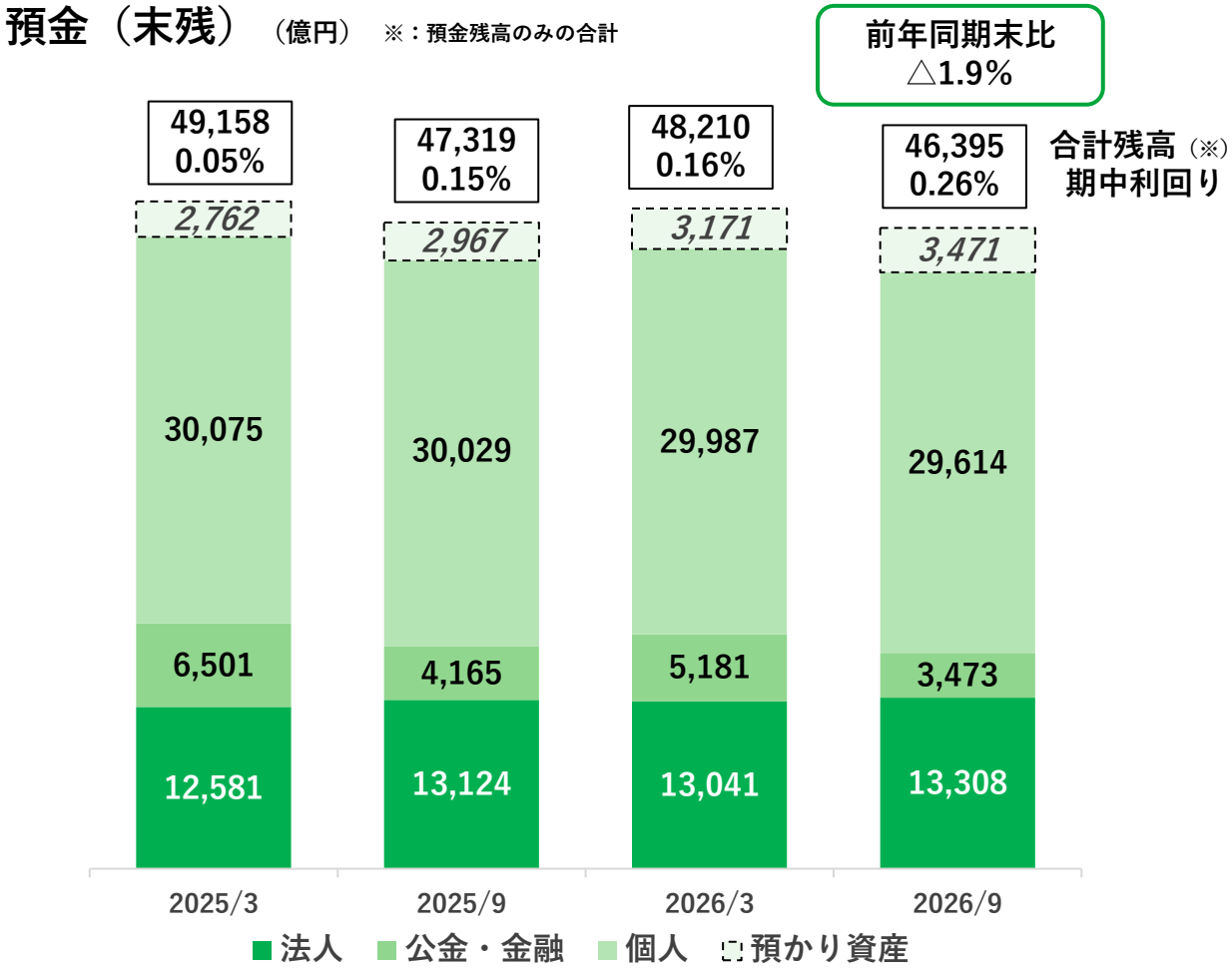
■親会社株主に帰属する中間純利益
- 資金利益の増加と法人税等の減少により、大幅な増益

© CCI Group, inc.

預貸金の状況（残高推移）

- 貸出は都市部・大企業向けの貸出金が増加。利回りは概ね計画通りで推移。
- 個人預金単体では減少するが、預かり資産まで含めた個人取引は前期末からほぼ横ばい推移





© CCI Group, inc.

預貸金の状況（利回り推移）

預金・貸出金の平残および利回り

項目	2025/9	2026/3	2026/9	前年同期比
貸出金 平残（億円）	27,900	28,919	31,077	＋3,177
貸出金利回り（%）	1.19%	1.24%	1.50%	＋0.31%
預金 平残（億円）	48,318	47,655	47,725	▲593
預金利回り（%）	0.15%	0.16%	0.26%	＋0.11%
預貸金利回り差（%）	1.04%	1.08%	1.24%	＋0.20%
（参考）政策金利（%）	0.5%	0.75%	1.25%	＋0.75%
（参考）個人預かり資産（億円） 公共債、投資信託・北國おまかせNavi、保険窓販	2,967	3,171	3,471	＋504

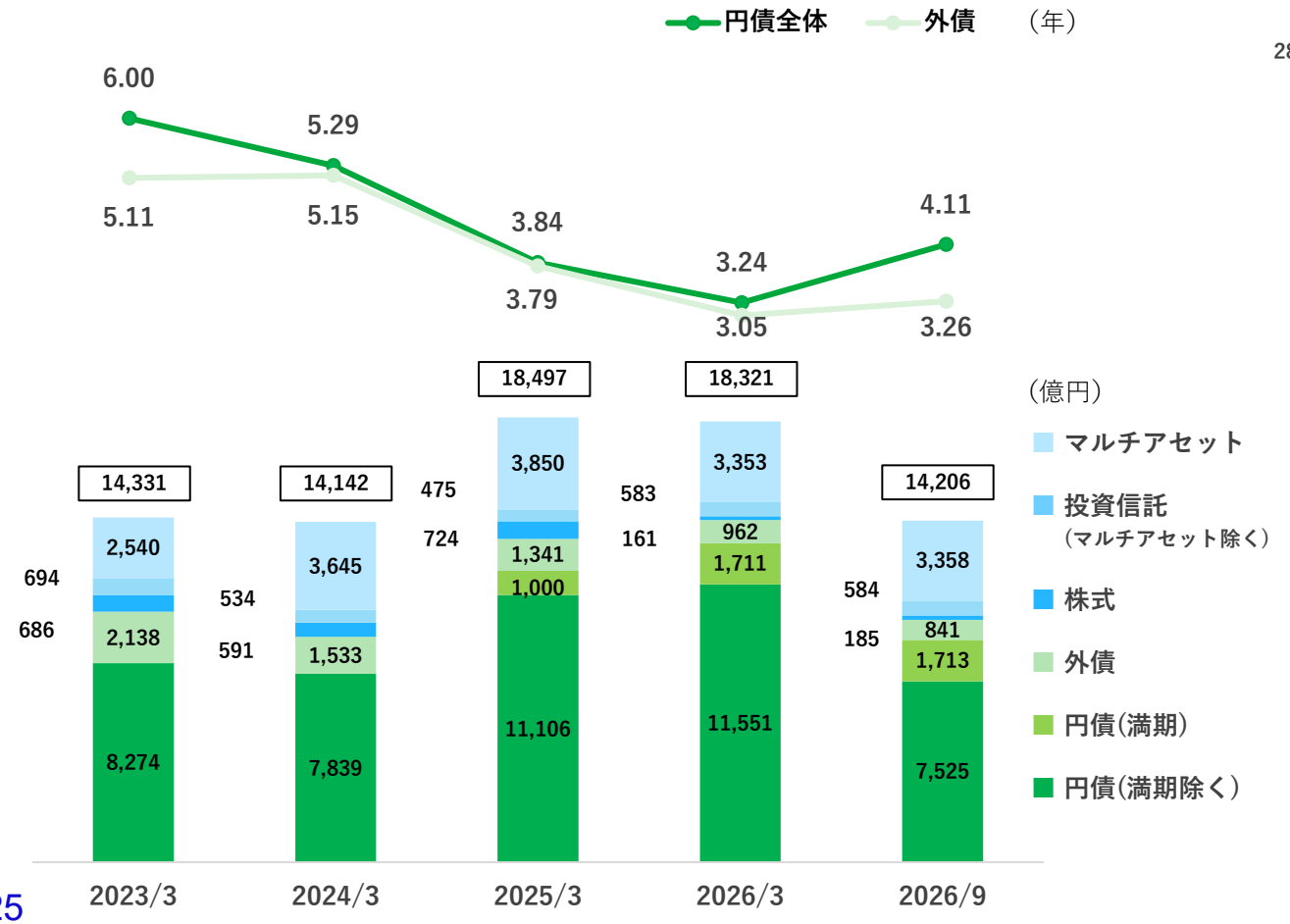
- 貸出金は、事業性貸出金を中心に順調に推移
- 市場連動型貸出金の比率拡大などにより貸出金利の適正化を進めるとともに、預金金利の追随率を約40%程度にコントロールしたことで、利回りを確保
- 預金残高のみならず、個人預かり資産を含めた資産全体を重視し、その拡大に取り組んでいく

© CCI Group, inc.

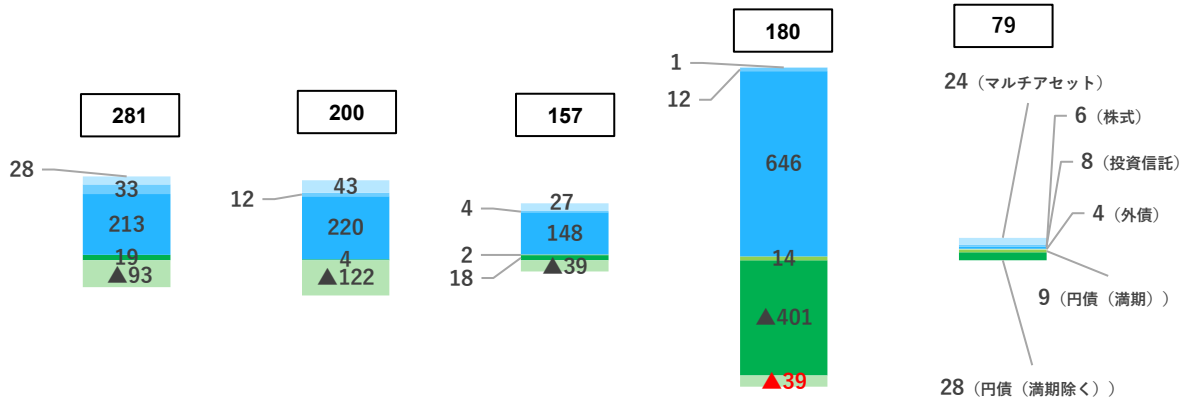
有価証券の運用状況と今後の投資戦略

■ 円債ポートフォリオの入替により、保有利回り改善を継続

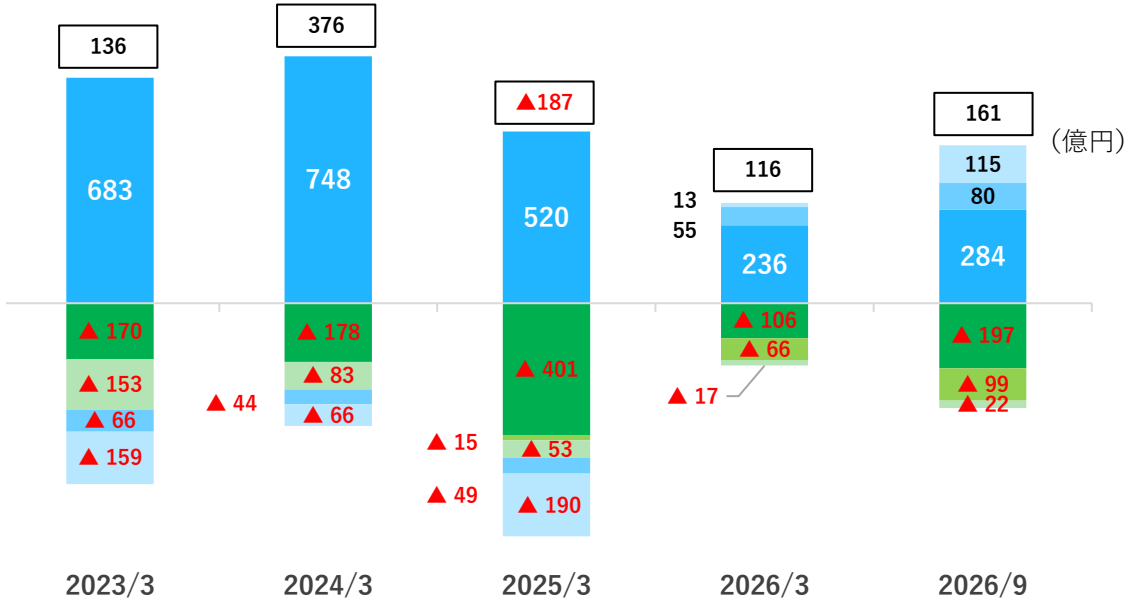
有価証券残高（簿価）とデュレーションの推移



資産別実現損益の推移



有価証券評価損益の推移



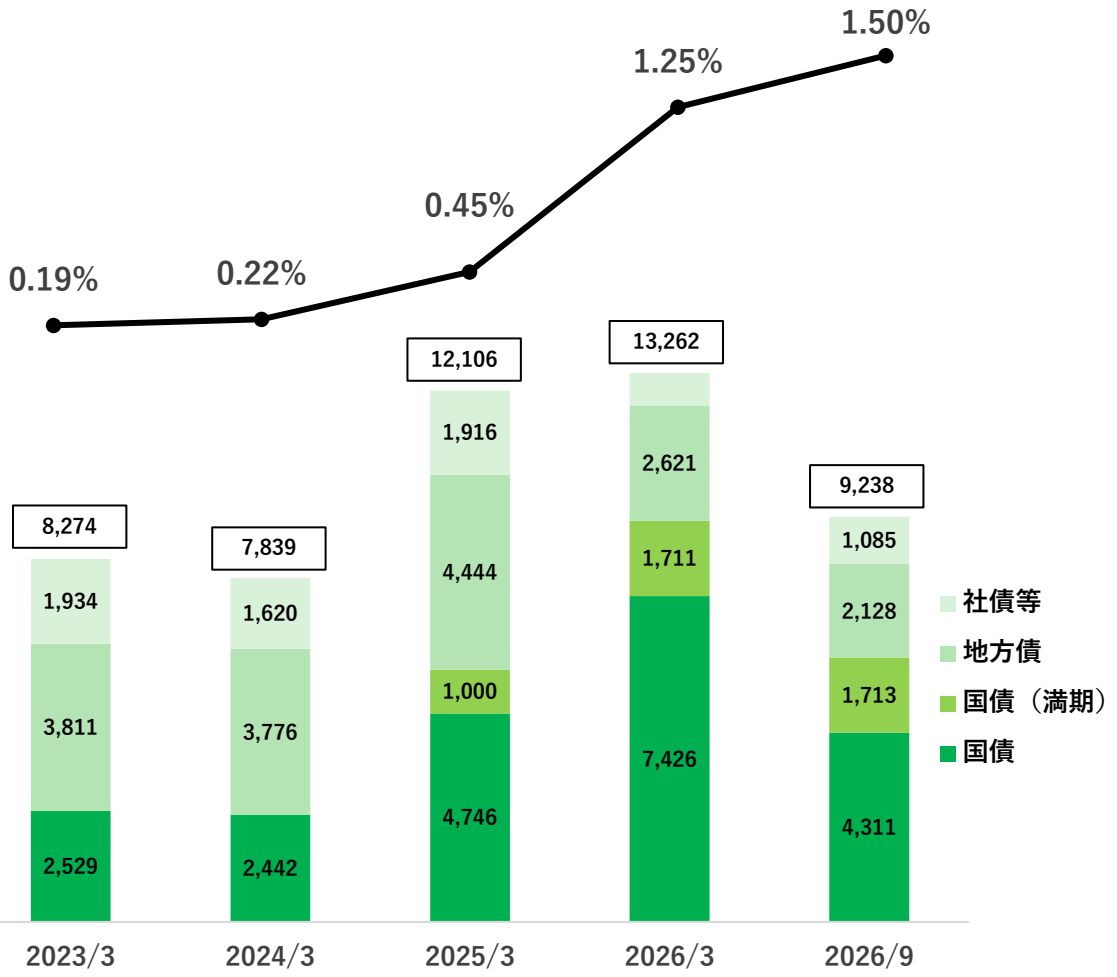
※評価損益には、金利リスクヘッジ目的のデリバティブ取引による繰延ヘッジ損益を含む

© CCI Group, inc.

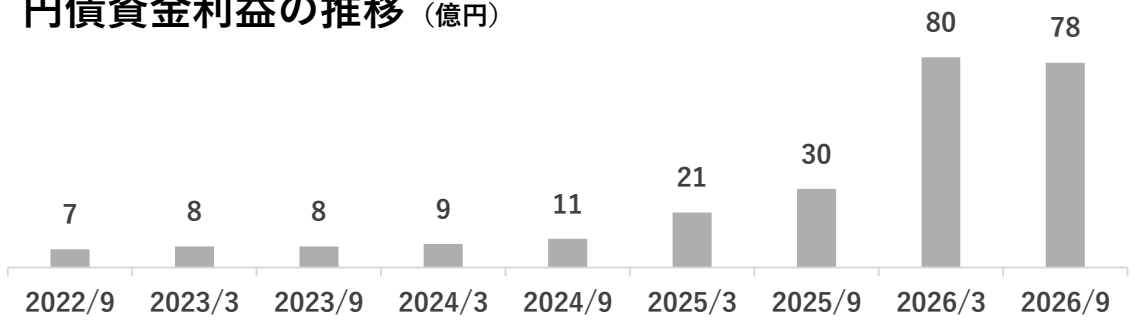
円債投資の状況

■ 円債ポートフォリオ入替に際し、金利上昇に備えたバーベルポジションを構築

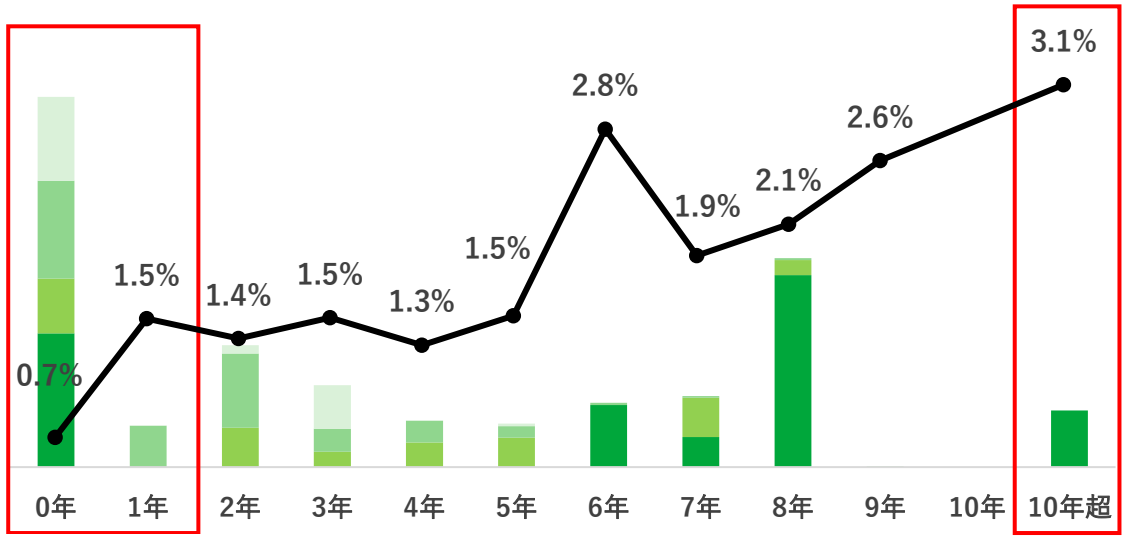
簿価残高と運用利回りの推移（億円）



円債資金利益の推移（億円）



償還ラダー



※償還ラダーは、金利リスクヘッジ目的の金利スワップに対応した国債残高を除く

© CCI Group, inc.

事前に株式会社CCIグループの許可を得ることなく、本資料を転写・複製し、又は第三者に配布することを禁止いたします。本資料は情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。本資料に記載された事項の全部又は一部は予告なく修正又は変更されることがあります。本資料には将来の業績に関する記述が含まれておりますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により、目標対比で異なる可能性があることにご留意下さい。

本資料に関するお問い合わせ先
株式会社CCIグループ
経営企画部 広報IRグループ
E-mail : cyosa@hokkokubank.co.jp

© CCI Group, inc.

さあ、協創社会へ。

CCIG

株式会社CCIグループ

https://www.ccig.co.jp/